

国際社会と 電子情報通信学会 IEICE into the World Community



基礎・境界ソサイエティ会長 宮永喜一

世界トップレベルの学会とは、権威のある国際会議の運営や、高いレベルでのジャーナル論文の編集などを推進することであり、これらは今後も重要で、必須の事項と考えます。同時に、IEEE などをはじめとして、世界中に多数存在する国際学会と競争や連携を繰り返し、我々の学会を更に活性化するには、いろいろなレベルの連携を想定した本会ならではの活動も重要であり、その実現と運用は、トップダウンでできる事業の場合と、ボトムアップで可能となる場合の両面があると感じています。

私を含む、小さな研究グループが始めたことではありますが、他学会との国際連携の経験を御紹介させていただきます。International Symposium on Communications and Information Technologies (以下ISCIT) と呼ばれる国際会議は、2001年11月に、第1回目の国際会議として、タイ王国のチェンマイで開催されました。タイにおける電気電子と情報通信関連の研究者が初めて主体的に開催した国際会議です。2003年までは、同じ形式でタイ国内において開催されましたが、実行委員会の主要メンバーからの希望もあって、ISCIT2004は、本会の協賛を受け、10月に札幌で開催されました。当時、札幌という場所で、この研究領域における国際会議を開催することが珍しかったのか、約20か国からの参加者で、250件を超える論文が採択され発表されています。

その後は、中国、オーストラリア、韓国から多くの研究者が運営委員会に加わり、現在まで、上記アジアの五つの国を順番に回っての開催で、アメリカ、EUからの発表も増え、有益な国際会議として広く知られることとなりました。これはタイを中心としたASEAN関係者の努力の成果ではありますが、本会がサポートしたことも大きな要因と感じます。

最近では、ISCITの運営委員会で、長年リーダーシップをとってきたタイの研究者グループが、複数の新しい国際会議を設立・開催し、またIEEEなどの大きな会議を誘致・開催するなど、その活躍は飛躍的に拡大しています。これらに並行して、ECTIという、電気電子情報通信系の学会を設立し、2013年には、基礎・境界ソサイエティとのシスターソサイエティに関するMoUを締結することとなりました。

基礎・境界ソサイエティは、国際化事業の一つとして、「国外における論文の書き方講座」を、2011年からASEANの各国で実施しています。最初の開催国は、タイのバンコクで、シスターソサイエティのMoUに基づき、ローカルアレンジメントのほか、予算的なサポートも頂きました。その後は、国際会議との併設事業として、フィリピン、マレーシア、ベトナムなどで実施し、参加者延べ数は、1,000名を超えています。また、2014年からは、「国外におけるジャーナル論文の編集・査読セミナー」を始めています。つまり、現在は国際会議開催に関する連携だけではなく、ジャーナル論文の投稿、査読、編集に関する学会活動のサポートに軸足を若干変化させています。昨年、「国外における論文の書き方講座」の関連事業として、ECTIが独自の講座を始めるなど、これから10年後どのように拡大してゆくのかわ、大きく期待しているところです。

これらはASEANのエリアにおける話ではありますが、地域を限定して行うような支援ではないと感じます。必要とされるほかの国際エリアにおいても可能な支援であり、重要な活動ではないかと認識しています。様々な国際社会に対応できる多様な国際学会として、関連する多くの学会との競争や連携・協調を深め、本会の発展と更なる活性化に向け、グローバル化に向けた活動を引き続き推進してゆければと考えております。